

ちほみのり速報

No.2

『早生』多収米の確立を目指して!!

6月中・下旬は茎数が増加する時期ですので圃場の茎数を確認して遅れずに中干しを行いましょう。適正な茎数管理は、収量に直結するため、非常に重要な管理となります。中干しとあわせて溝切りを実施し、今後の水管理を容易にできるよう対応しましょう。梅雨入りも近いことで、いもち病を中心に病害虫の発生が懸念されます。曇天や雨天が連日長引く場合は、病斑の発生リスクが高くなりますので、積極的に薬剤の散布を検討してください。最後に今後も圃場観察しながら、適正な管理に努めてください。

1. JA生育調査状況（6月12日現在）

栽培区分	平均作業日	草丈 cm	茎数 本/m ²	葉令	葉色
移植	-	39.0	410.4	-	4.2

■ 中干し開始の茎数に近づいてきました。開始しても問題はないと思われます。

【平年比】

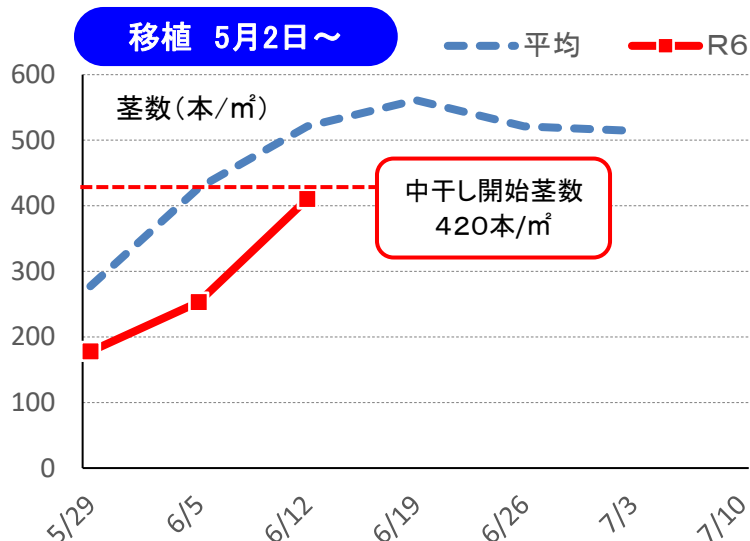
- 草丈 : やや短い
- 茎数 : やや少ない
- 葉色 : 並み

【生育調査の状況】

- 茎数が十分に確保されましたので、中干しを実施しましょう。

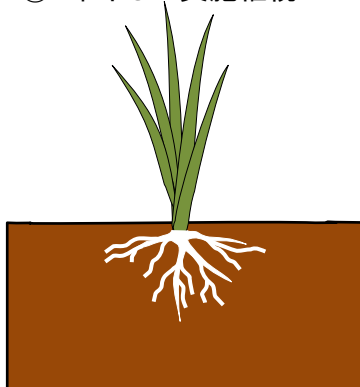


2. 茎数の推移と今後の管理



3. ちほみのり栽培管理のポイント！

① 中干しの実施継続



② 溝切り実施

溝切りは、落水3～7日後、田面がやや固まった状態で実施。溝切り間隔は5m。

『溝切り効果』

- 登熟良好 : 中干しと併せ無効分げつを抑える。
- 穂実向上 : 後半までの間断通水。
- 品質・収量アップ : 落水適期まで灌水管理。
- 収穫作業が容易 : 落水が速やかで、コンバイン作業がし易い。

